

4. 荒神山古墳の埋葬施設

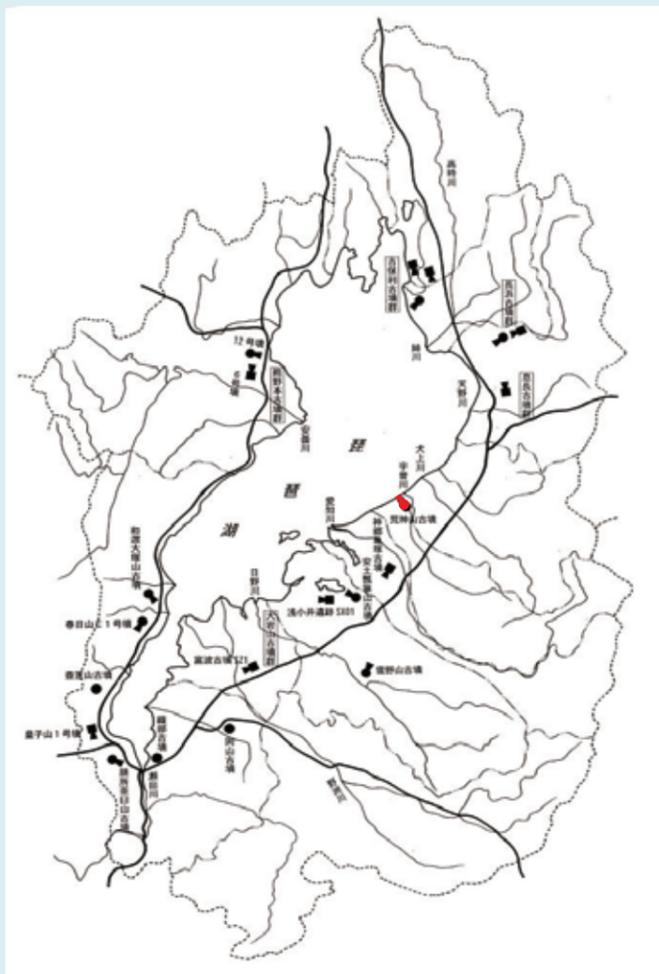
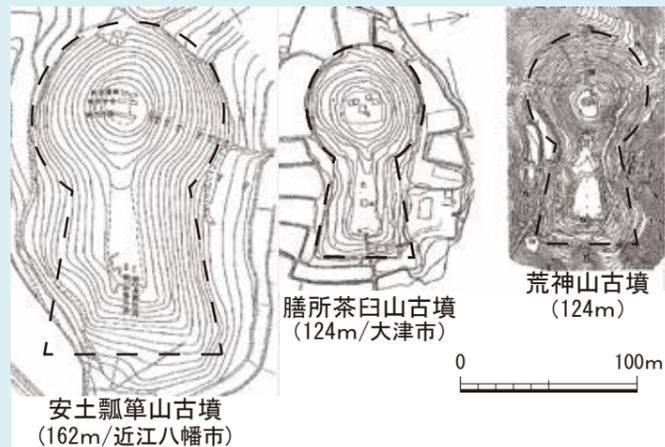
後円部の墳頂平坦面の中央付近に楕円形の窪地があり、埋葬施設の盗掘坑（とうくつこう）と考えられます。これまで行った4回の調査は、古墳の範囲確認がおもな目的であり、埋葬施設の調査は行っていないため、詳細は、よくわかっていません。

5. 荒神山古墳の意義

これまで彦根市を含む湖東地域北部は、大型の首長墳が知られない地域でした。しかし、荒神山古墳の発見により当地域にも有力首長の存在したことが判明しました。

荒神山古墳と同じ頃に造られた前方後円墳には、安土瓢箪山古墳、膳所茶臼山古墳（大津市）などがあり、琵琶湖を望む湖上交通の要衝に築かれているという共通点があります。湖上交通の権益に深く関わった首長だったと考えられます。

荒神山古墳は3段築成の墳丘を備え、埴輪を巡らせて葺石で覆うなど、大和中枢部に築造されたものと同じの様式を持つことから、大和とも深いつながりのある首長墳であることが明らかになりました。



琵琶湖周辺の古墳時代前期古墳位置図

◀ 琵琶湖周辺の大型古墳比較

湖東平野の大型前方後円墳

荒神山古墳

荒神山古墳は、湖東平野の独立丘陵である荒神山に築かれた前方後円墳です。その立地は、琵琶湖を意識していることがわかります。この古墳の被葬者は、湖上交通の権益に深く関わった首長だったと考えられます。また畿内と築造方法が似ており、大和とも深いつながりのある首長墳であることが明らかになりました。

1. 荒神山古墳の立地を考える

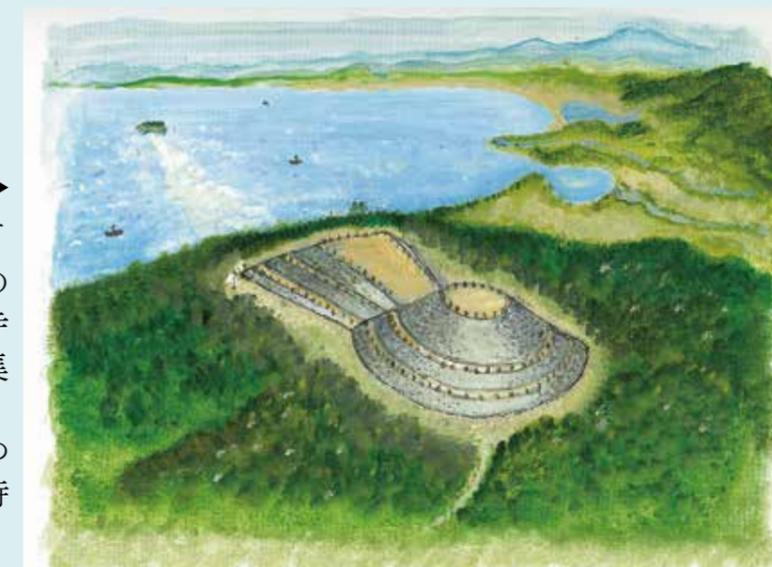
滋賀県で2番目に大きい前方後円墳である荒神山古墳は、古墳時代前期末（4世紀末）に造られました。湖東平野にそびえる荒神山（標高284m）の山頂近くに全長124m、墳丘は3段に築かれその表面は、葺石で覆われ、埴輪が配列されました。湖東平野のランドマークと呼ぶべき存在で、その姿は琵琶湖からの眺望を意識して造られています。



荒神山と湖東平野



荒神山の位置



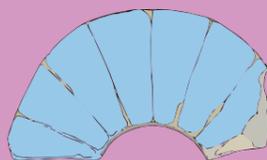
荒神山古墳想像図 ▶
古墳時代前期末ごろの様子

古墳は、琵琶湖を見下ろす荒神山の頂上に造られました。周辺には妙楽寺遺跡や屋中寺遺跡、芝原遺跡などの集落遺跡があります。

琵琶湖からも湖東平野からも目立つところに築かれた荒神山古墳は、当時はたいへん目立っていたでしょう。

湖東平野の大型前方後円墳

荒神山古墳



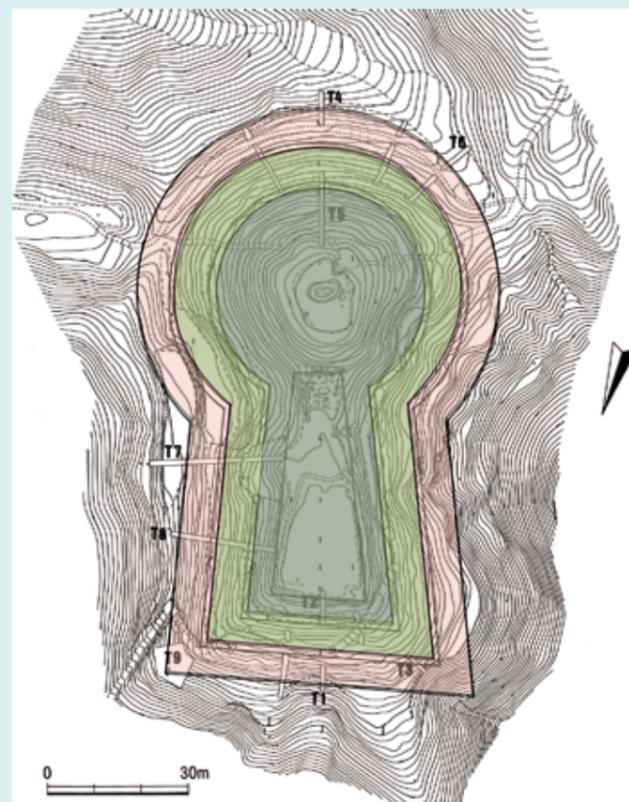
編集・発行
彦根市文化財課
〒522-8501 滋賀県彦根市元町4番2号
Tel : 0749-22-1411 (代表)
Fax : 0749-22-1398 (代表)
E-mail : bunkazai@mx.hikone.ed.jp

2. 荒神山古墳の大きさと段築

各部の大きさ

- 全長：124m
- 前方部 長さ：墳頂；約53m (青)
一段目；約61m (ピンク)
- 後円部 直径：約80m (青)
- くびれ部 幅：約52m (ピンク)
- 前方部 高さ：約10m
- 後円部 高さ：約16m

丘陵の尾根を整形して基底部とし、その上に前方部・後円部に2段のテラスと墳頂平坦面を設けた、「3段築成」を採用した前方後円墳であることが判明しました。基底部は標高262～264mで、その上約4mに1段目のテラスを、さらに約3m上に2段目テラス、そして墳頂平坦面を設けています。



荒神山古墳範囲推定図



墳頂



荒神山古墳 埴輪及び葺石確認状況

●墳丘斜面

墳丘の斜面は、約30度の傾斜であります。墳丘表面には、丸い石は敷かれていて、土台となる下を「小口積み」、斜面部分は「貼石状」と積み方を使い分けていたと考えられます。

●二段目のテラス部分

標高約270mに造られた平坦なテラスです。墳頂平坦面の比高差は、8.5mあり、際立っており、築造当時はさらに高さがあったと考えられます。

●一段目のテラス部分

標高266m付近に造られた平坦なテラスです。テラスは幅約1.3mで、円筒埴輪が並べられていました。

3. 葺石と埴輪



荒神山古墳 貼石状の葺石



荒神山古墳 小口積みの葺石

荒神山古墳では、河原石で葺石がされていました。葺き方は2種類あり、1つは「小口（こぐち）積み」で、葺石の小口を外側に揃えるように下から上へ積んで行く方法です。もう1つの葺き方は、盛土に貼り付けるように覆う「貼石状」の葺き方です。小口積みがより古相を示していると言われており、荒神山古墳は一部に小口積みを残しつつ、全体としては貼石状に葺く手法へ変化していると推測されます。



荒神山古墳 埴輪列確認状況



荒神山古墳 埴輪

埴輪は各テラスを中心に円筒埴輪（普通円筒埴輪・朝顔形円筒埴輪）・壺形埴輪・形象埴輪（冢形埴輪・蓋形埴輪・靱形埴輪・不明埴輪）が出土しました。ほとんどの埴輪片は、葺石や多量の土砂とともに下方へ崩落した状態で出土しており、埴輪が設置された当初の原位置をとどめていたのは、わずかに7個体のみでした。2段目テラスでは、埴輪列が確認されました。

埴輪の位置・状況より、荒神山古墳では前方部、後円部ともに墳丘の墳頂部、2段目テラス、1段目テラスで埴輪列が巡っていたと考えられます。

近江地域で、多くの埴輪が並べられていたことが確認できる最古の前方後円墳と考えられます。